

容所跡。

⑨ 洗脳教育……昭和二十一年夏ごろから毎週二時間。

⑩ 収容所生活全般……皆、協力して良く働いた。

⑪ 懲罰……みんなよく働いたので、なかった。

(九) 抑留中の生活と極限状態

① 乗りこえてきた信念……生きて故郷へ帰りたい。

② 生死の境、死に直面したときの感想……日本の土を踏むまでは死にたくない、と。

③ 心身を支えた工夫……体に気をつけて、休める時は休んだ。気力だった。

(十) 帰還

① ダモイをいつ、どこで聞いたか……昭和二十二年

八月一日ごろ、収容所長発表。

② 集結地……コムソモリスクから貨車でナホトカ

へ。

③ 乗船名……信濃丸(昭和二十二年八月二十七日)

④ 船内生活……平然だった。

⑤ 上陸地……舞鶴港

⑥ 収容期間……昭和二十年八月十五日―二十二年八月二十五日、二年一カ月(二十五カ月)

(十一) 帰国後の生活……父の家業の農業に従事した。

(十二) 最後に子孫や国民に言い遺したいこと

1 戦争をなくして世界の人々と平和に暮らすこと。

2 家内仲良く、よく働けば、みんな安心して仲良く暮らすことができる。

3 体を大切にしろ。

## 抑留中の労苦記録

山梨県 長田 十一

(一) 出生から入隊まで

① どこで出生……山梨県南都留郡忍野村忍草

② いつ出生……大正十二(一九二三)年八月四日

③ 学校……忍野村尋常校高等小学校

(一) ソ連軍侵攻前

① いつ入隊……昭和十九(一九四四)年四月三十日  
召集

② 入隊場所……東京赤坂 東部第六部隊鉄道隊

③ 駐屯地……満州国滨江省ハルビン鉄道第二連隊

戦地……チチハル

(二) ソ連軍侵攻をどこで受けた

① いつ……昭和二十年八月十日牡丹江駅内に陣地布  
陣、八月十三日停車場陣地

② どこで……横道河子駅まで前進してソ連軍に応戦  
したが、停戦となった。

(三) 終戦

① 詔勅……八月十八日横道河子駅で詔勅を聞いた。

② 感想……ガツカリしたが安心もした。

③ どう終戦したか……隊長の命令で武器を捨てた。

④ 武装解除から収容所入りまで……駅内が収容所と  
されたため、そのままソ連兵に収容された。

(四) シベリア抑留地への移送

① いつ頃……八月二十日

② この地点からどこへ送られた……横道河子から

ブラゴエシチェンスク

③ どのように……東京ダモイと言われソ連軍の自動  
貨車に乗せられ約二百キロ。

何日位……四日間

④ 第一次入ソ場所……ブラゴエシチェンスク収容所  
いつ……九月二十日頃

(五) 抑留地の生活

① 第一次収容所どこ……ブラゴエ市内タロエー到着  
収容人員……千人くらい

② 生活の様子……タロエー収容所に昭和二十一年四  
月までいた。

住まい……野営用天幕三十人位

食事……満州からの移送糧秣

仕事……満州からの移送資材の卸しゅか下に使役され  
た。

ノルマ……なかった。

衣服……着たまま 入浴……月一回くらい

シラミ……たくさん出た。ノミも出た。

南京虫等……少なかつた

伝染病……出なかつた

### ③作業の状況

主作業……第二次收容所ニコライエフスクでは、農場の手伝い、草刈り（ホルホーズ作業）ノルマ達成状況……定めはなかつた。

単位……個人、二十人一組で、五組くらいで働いた。

中隊または收容所……收容所には五個中隊千人くらいいた。グループ……二十人組だつた。

④給与……食料は規定どおり出たが、ピンハネが多く、いつも少なかつた。

### (七) 労役

①どういう労役についたか……ニコライエフスクの收容所に二十一年五月から二十二年六月までいたときは、農場作業と工場手伝い。

②收容人員……千人くらい

宿舎……木造ログハウス、二段ベッドで一棟五十—百人住まい。

③冬最低温度……零下四七度

冬はどうして生活したか……零下三〇度以上は作業屋外なし。暖かい日はホルホーズ作業、土木工事手伝い。

④労役の時間……午前八時から午後五時まで八時間労働だつた。

⑤労役に堪えられない者はどうされたか……休養室か病院に入れられた。

⑥健康管理は……健康者は労働、病人は病院だつた。

⑦常日頃健康を保つ上で役に立つことは……春は野草やへびなどつかまえて食べた。

⑧衣服について扱われたことは……満州で着ていたまま、二年間何ももらわなかつた。

### (八) 抑留者の統制管理

①労役につく基準……体の健康を一級二級三級に分けて、一級二級は普通作業、三級は軽作業。

②労役免除……三級以下で病人は免除された。

③健康管理……毎月一回、軍医が級を決めた。

④ 点呼・作業場への出入……朝と夕方点呼、作業場の往復、衛門で点呼された。

⑤ 着衣・衣服……着たままで補充なし。

⑥ 食事の状況……定量の規定はあったが、いつも欠配。

⑦ 休日……日曜日は休日。零下三〇度以上、仕事休み。

⑧ 収容所施設、構造……木造丸太積みハウスの

⑨ 洗脳教育……収容所では教育はなかった。ナホト

カに着いて乗船するまでしぼられた。

⑩ 収容所生活全般……民主化運動がなかったので平和だった。

⑪ 懲罰……あまり聞かなかった。死んだ戦友が裸にされて野原に捨てられた。

### (九) 抑留中の生活と極限状態

① 乗りこえてきた信念……死んでたまるか、生きてダモイするのだと頑張った。

② 生死の境、死に直面したときの感想……栄養失調の戦友がパンを握りしめて死んでいるのを見て悲

しかった。

③ 心身を支えた工夫……与えられた食物をよく噛んで大事に食べた。山草やヘビ、カエルなど上手に食べることを覚えた。

### (十) 帰還

① ダモイをいつ、どこで聞いたか……昭和二十二年七月、収容所長が命令した。

② 集結地……ブラゴシチェンスクから汽車(貨物列車)で千人くらいナホトカへ行った。

③ 乗船名……高砂丸

④ 船内生活……みんな仲良く、喜んでいた。

⑤ 上陸地……舞鶴港へ

⑥ 収容期間……昭和二十年八月一、二年

### (十一) 帰国後の生活

父母が元気で百姓をしており、田畑も割合多かったので生活には困らなかった。家の百姓の手伝い。農家として自立した。

### (十二) 最後に子孫や国民に言いたいこと

戦争は絶対やるべきでない。どこの国の人も

仲良く助け合っていけば戦争はなくなる。

## 抑留中の労苦記録

山梨県 天野 民夫

(一) 出生から入隊まで

①どこで出生……山梨県南都留郡山中湖村平野

②いつ出生……大正十一(一九二二)年五月二十日

③学校……平野小学校高等科卒業

(二) ソ連軍侵攻前

①いつ入隊……昭和十七(一九四二)年一月十日

志願 現役

②入隊場所……東京青山 近衛歩兵第四連隊

③駐屯地……満州国黒河省勝武屯

(三) ソ連軍侵攻をどこで受けた

①いつ……昭和二十年八月九日払暁

②どこで……満州国黒河省勝武屯 元第五国境守備

隊勝山陣地

③どんな状況で……私は、開戦時は一二三師団歩兵

第二六九連隊第一大隊本部付下士官(元第五国境守備隊本部付)で、八月九日開戦、我方陣地もそのままなれど戦局必ずしも利あらず、八月十二日村上大隊長命で孫呉花見山師団司令部へ伝令として派遣さる。八月十二日真夜中十二時出発、腰までつかる湿地帯などを通り、夜明けごろ、いつも演習に出ている山の稜線からソ軍の戦車、装甲車を見て夜が来るまで身を伏す。夜陰に乗り、知り得た地形をちょうど山の夜明けで夢中で山地を歩き、遂に花見山の友軍陣地へ到着する。八月十四日三時ごろと思う、師団司令部参謀長に戦局の報告をする。

(四) 終戦

①詔勅……八月十五日はずっと寝ていた。夕方通信の下士官より降伏との噂を聞く。未だ参謀長よりの停戦は出ていない。八月十六日午後停戦。

②どう終戦したか……参謀長直下なのですべて命令だ。